

そうだ、燕市産業史料館に行こう。

●燕市大曲 4330 番地 1 ☎ 0256・63・7666



燕市の産業のルーツを学ぶなら、ものづくりのまち燕の金属加工産業の歴史を伝えている燕市産業史料館へ行ってみましょう。
これからの季節は、子どもたちの夏休みの自由研究にもピッタリ。家族みんなで、ふるさとの歴史を改めて学んではいかがでしょうか。

02 ものづくりを体験する

体験工房館では、全国でも珍しい金属加工の体験ができます。一番人気は、金鍍を使って純銅タンブラーに鍍目模様をつける体験。所要時間は約30分です。世界に一つだけの純銅タンブラーをその場で作り、持ち帰ることが可能です。ほかに、20種類以上の色から選べるチタン製スプーンの酸化発色体験や錫のぐい呑みづくりなど、盛りだくさんの体験があなたを待っています。産業史料館で金属産業の歴史を学び、見学してから、体験するより面白さを感じることができます。

体験工房館のメニュー

- 純銅タンブラー鍍目入れ
- 錫ショットグラス・錫ぐい呑み鍍目入れ
- 錫ぐいのみ製作体験
- 錫の小皿づくり体験
- チタン製スプーン酸化発色

※ほか、期間限定の体験メニューも有り



体験料などの詳細はこちら▶



03 燕市産業史料館 50周年

燕市産業史料館は、8月1日(火)で開館50周年を迎えます。記念事業として、7月28日(金)〜9月18日(祝)にかけて特別企画展「クブルムの花嫁のセカイ展」をおかわり〜を実施するほか、体験型イベントや記念講演会の開催を予定しています。
また、8月26日(土)に開催される、燕市役所まちあそび部の主催イベント「まちあそびフェス」にあわせて、8月26日(土)・27日(日)の二日間は無料で開館します。ぜひ、燕市産業史料館へお越しください。

50周年事業の詳細は、決定次第、燕市産業史料館のホームページに掲載します。▶



※特別企画展の詳細は13ページ参照



燕市産業史料館の歴史

燕の金属産業のルーツや変遷を学ぶ場所として、市内企業の有志の活動や寄付が基となり、当時では、珍しい「産業」という文字が使われた博物館として、1973年に開館しました。

- 本館 1973年竣工 / 2019年リニューアル。産業史の原点を紹介。
- 別館 1984年竣工 / 日本有数のキセルコレクション。企画展示室も併設。
- 新館 2008年竣工 / 金属洋食器・ハウスウェア・世界のスプーンを展示。
- 体験工房館 2019年竣工 / 金属加工のさまざまな技術体験ができる施設。

01 ものづくりの奥深さを知る

燕市は、全国に知られる金属加工産地です。江戸時代から、ものづくり一筋に技術を磨いてきた400年以上の歴史があります。そのルーツを楽しく知ることのできる、全国でも珍しい産業をテーマとした博物館が燕市産業史料館です。
館内には、地形に由来する金属産業の成り立ちや、現在に至るまでの歴史背景、美術工芸品として高い評価を得ている鍍起銅器。鍍金分野で人間国宝に認定された玉川宣夫さん（燕市名誉市民）の木目金作品。日本一のキセルコレクションに世界のスプーン館。燕の金属加工技術が紹介されているコーナーなどわかりやすく展示されています。